

**IDEC 株式会社**  
**2026 年 3 月期 通期決算説明会 質疑応答要旨**  
(2026 年 5 月 14 日開催)

**Q. 粗利率が 3Q より 4Q に低下した要因。**

A. 中東の不安定な状況が原油価格に影響を与えていることから、4Q の粗利率に一部影響が出ている。価格の見直しなども行っており、利益率の高い製品や地域の売上拡大を推進している。

**Q. 4Q 受注が強かったが、持続性はあるか。1Q の見込みは。**

A. 日本における半導体関連の設備投資需要が強いことや、例年期末に中国での受注が増加する傾向にあるため。中東情勢などの影響から、今後の不安定要素に対する対策として、先納期の受注も一部含まれている。

受注は継続的に堅調に推移しているが、4Q は期末要因で増えている部分もあり、1Q 現在の傾向のまま増えるとは考えていない。

**Q. 受注状況を踏まえると、通期計画は保守的ではないか。**

A. 受注は好調だが、不安定な市場環境も踏まえて計画を立てている。

**Q. 2027 年 3 月期の業績予想で、地政学的リスクの高まりを受けた原材料価格上昇の影響を加味しているとのことだったが、どの程度の影響額を想定しているか。**

A. 数億円程度を想定しているが、今後情勢の変化が生じるため、状況を踏まえて対応を行っていく。

**Q. 2027 年 3 月期の販売管理費が売上以上の伸び率となっているが、何が増えるのか。**

A. グローバル拡大に向けた体制の見直しを行っており、積極的にグローバル人材の強化を行っている。また、研究開発費の投資や、米国新拠点の本格稼働に伴う減価償却、ERP など DX 投資の減価償却費などを織り込んでいる。

**Q. 2027 年 3 月期に伸びる地域や製品は？**

A. 国内外での伸び率は同程度の 3%超を見込んでいる。

米国については、関税の影響を今年は半年分しか織り込んでいないため、前期と比べると半年分の影響はある。その影響を除くと米国は堅調に伸びる想定。欧州は安定的に経済環境が推移しており、一定程度の伸びを想定している。

事業では、主力の HMI は流通在庫が平常化し、国内外ともに安定的な成長を見込んでいる。安全事業も伸びを見込んでおり、前期減少したオートメーション&センシングは今期増加する計画。インダストリアルコンポーネンツは、売上というよりも収益性の向上を図っていく。

**Q. 中国企業の台頭による競争環境の変化。**

A. 米国などでは、中国企業が価格戦略によりマーケットシェアの獲得を狙ってきているが、現時点では大きな影響は受けていない。ただ、今後日系企業と品質レベルもあまり変わらない状況になると考えられるため、汎用品については中国メーカーと競争できるような体制を検討する必要がある。

**Q. 北米ではロックウェルなど強い企業が存在するが、高い成長が可能か。**

A. 大手企業と直接バッティングしない市場でシェアを取っている。米国での事業拡大に向けてオーガニック成長だけでなく、グローバルアライアンスや M&A を活用することで更に伸ばしていく。

**Q. 前回の説明会で説明があった、データセンターやフィジカル AI などの状況について。**

A. 新たに注力している業界の一つがデータセンター。その他にも注力業界はあり、IDEC の強みを生かし、いろいろな業界での展開に挑戦をしていく。

**Q. コロナ禍のような、半導体や電子部品の品不足による影響はあるか。**

A. 若干の影響はあるが、必要な部品については先行発注をしており、リスク管理ができています。

以上